

参 考 資 料

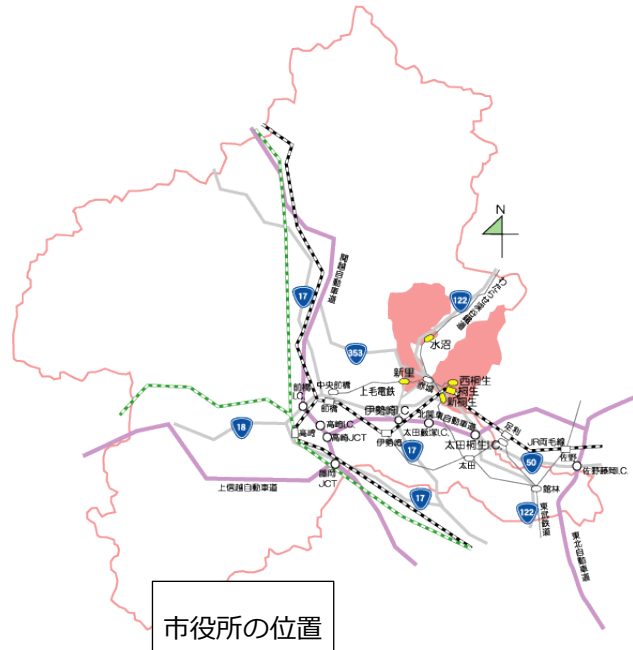
1. 位置的・自然的特性	… 1
2. 歴史的・文化的特性	… 1
3. 気象（令和2年）	… 2
4. 人口と世帯	… 2
5. 参考（推進項目）	… 3
6. 観光入込客統計調査報告概要（令和2年）	… 5

位置的・自然的特性

桐生市は、1921年に全国84番目の市として誕生しました。その後、幾多の市域の変遷をへて、2005年には新里村、黒保根村と合併し、面積は約2倍に広がりました。

群馬県の東南部に位置し、前橋市、伊勢崎市、太田市、沼田市、みどり市、栃木県の足利市、佐野市と接しており、東京とは直線距離で約90キロ、車で約2時間、JR（新幹線経由）または東武鉄道で、約1時間40分で結ばれています。

市街地には渡良瀬川と桐生川が流れ、山々が屏風状に連なり、市の総面積の約7割を森林が占めるなど、水と緑に恵まれた自然豊かな地となっています。



北緯 36 度 24 分 19 秒 東経 139 度 19 分 50 秒
標高 107.672 メートル

歴史的・文化的特性

桐生の歴史は古く、市内からは縄文時代の石器・土器、住居跡が発掘され、なかでも千網谷戸遺跡（ちあみがいどいせき）から出た耳飾りは、国の重要文化財に指定されています。

また、古くから織物のまちとして発展してきた桐生市は、奈良時代のはじめには絹織物を朝廷に献上した記録が残っており、江戸時代には「西の西陣、東の桐生」とうたわれ、織物の一大産地となりました。

現在も、織物産業の繁栄を今に伝える町並みがいたるところに残っています。天満宮地区と本町一、二丁目には、約400年前の土地の区画（敷地割）に、江戸後期から昭和初期に建てられた主屋や土蔵、ノコギリ屋根の工場など、絹織物業に関わるさまざまな建造物が数多く残っており、国の「重要伝統的建造物群保存地区※」に選定されています。

※ 重要伝統的建造物群保存地区…市町村が条例などにより、歴史的な建造物や町並み、またそれらと一体となっている環境を保存するために都市計画で決めた伝統的建造物群保存地区のうち、文化財保護法の規定に基づき、特に価値が高いものとして国が選定したものです。

気象（令和2年）

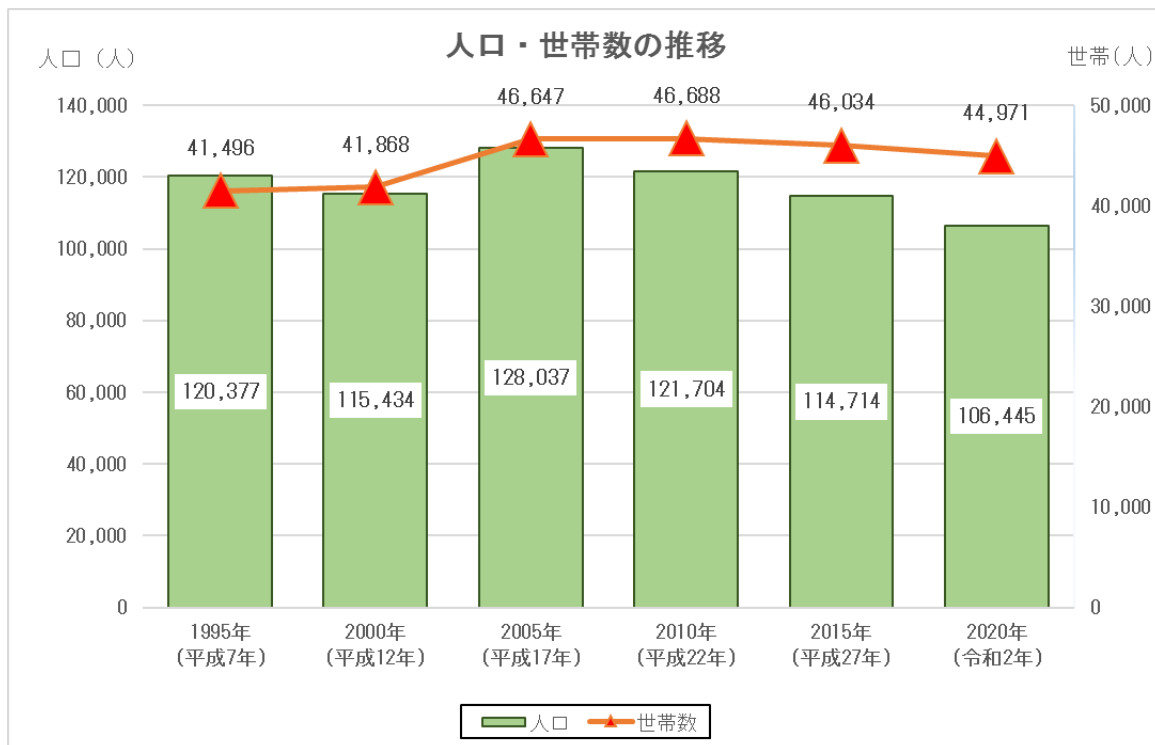
年平均気温	15.6度
最高気温	40.5度
最低気温	マイナス6.3度

※前橋地方気象台ホームページより

人口と世帯（令和3年12月末）

区域	男	女	計	世帯数
旧桐生市	42,459人	46,125人	88,584人	42,149世帯
新里町	7,999人	8,138人	16,137人	6,504世帯
黒保根町	825人	833人	1,658人	812世帯
計	51,283人	55,096人	106,379人	49,465世帯

注：旧桐生市は、平成17年6月13日の新里村、黒保根村との合併前の桐生市



※データは国勢調査数値

推進項目の一部を参考に紹介

1 日本遺産を活用した観光施策

③ 日本遺産を核とした観光の推進

桐生は日本の絹のふるさと

日本遺産 JAPAN HERITAGE

日本遺産とは、文化庁が認定する地域の歴史的な魅力や特色を通じて、我が国の文化・伝統を語るストーリーで、平成27年4月に、18件のストーリーが日本遺産として認定されました。群馬県内では、桐生市・甘楽町・中之条町・片品村にある13件の文化遺産から構成される「かかあ天下〜ぐんまの絹物語」が認定され、そのうちの6件が桐生市内にあります。

① 桐生新町重要伝統的建造物群保存地区

400年以上前の町建で当初の区割りが残り、明治・大正時代の建物が多く残ります。

② 後藤織物

桐生織物の発展に大きな貢献をしてきた織物工場。現存する本道の「白根工場」のほか、釜淵、織物倉庫など染色・機織などの織物生産のシステムをそのまま現存しています。趣のある建物は多くのドラマや映画のロケ地としても使われました。



③ 織物参考館“紫”

「のこぎり屋根工場」を活用した体験型の博物館。手織り体験や染色体験ができます。また、稼働中の織物工場も併設されています。

④ 白瀧神社

京都から織物技術を伝えた「白瀧姫」をまつる神社で、桐生から朝廷へ上った若者が白瀧姫をまつった伝説から、恋愛成就の「ウースボット」としても知られています。境内には目を当てると織物が聞こえたりという大岩「降臨石」があります。

⑤ 絹染記念館

全国に6か所しかない「模範工場」の一つで、進糸会社の事務所として使われていた建物です。大正6年に建てられたもので、群馬県歴史的洋風石造建造物と考えられ、現在は郷土資料の展示施設として公開されています。

⑥ 桐生織物記念館

桐生織物協会の旧事務所跡です。1階では桐生の織物製品を販売しています。2階は織機や織物が展示され、絹から製品になるまでの工程や織物産業の歴史について、専門の解説員から説明を聞くことができます。



2 まちなかを活用した観光施策

まちなか周遊観光の推進

キノビースポーツ (商店街との連携)

- 商店街振興組合などと連携した周遊観光促進
- 約100店舗もの協賛店で割引サービスなどの特典と観光パンフレットを配布
- 観光客にトイレや休憩所を開放してもらえる店舗情報も紹介

桐生市観光情報センター「シルクル桐生」

- 群馬銀行桐生支店の敷地内に、観光発信機能と物産販売機能を併せた施設として、令和2年3月にオープン
- まちなか周遊観光の拠点施設として活用
- 観光情報発信及び物産販売については、(一社)桐生市観光物産協会に業務を委託
- 地域おこし協力隊を活用し、オリジナル商品の開発やECサイト構築などを通じ、桐生の魅力を発信していく



町建での起点・桐生天満宮

名士たちの社交場として賑わった桐生倶楽部、当時の窓ガラスが残り、繁栄を物語っている。

織物産業を中心に発展した伝統的な街並み

観光ガイド (織都桐生案内人の会)

桐生織物会館、織物関係の各組合事務所が置かれている。「近代化遺産」と呼ばれる、明治時代以降の近代化を支えてきた建物。

戦時中、桐生に疎開していた南川扇を頼り、堀口安吾が暮らしていた倉上邸跡(現在は花屋)。安吾は3年間の桐生での生活ののちこの地で亡くなった。現在地には「千日往還の碑」が建てられている。



3 周辺地域と連携した観光施策

近隣自治体との連携

赤城山観光広域連携事業

国の地方創生推進交付金を活用し、赤城山周辺自治体により、赤城エリアの自然環境と地域資源を活用したサイクルツーリズムや観光プロモーション、周遊観光などを促進

桐生・みどり周遊観光推進協議会

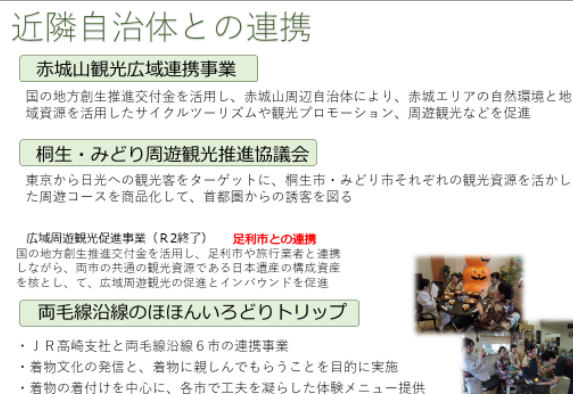
東京から日光への観光客をターゲットに、桐生市・みどり市それぞれの観光資源を活かした周遊コースを商品化して、首都圏からの誘客を図る

広域周遊観光促進事業 (R2終了) 足利市との連携

国の地方創生推進交付金を活用し、足利市や旅行業者と連携しながら、両市の共通の観光資源である日本遺産の構成資産を核として、広域周遊観光の促進とインバウンドを促進

両毛線沿線のほほんいんどりトリップ

- JR高崎支社と両毛線沿線6市の連携事業
- 着物文化の発信と、着物を親しんでもらうことを目的に実施
- 着物の着付けを中心に、各市で工夫を凝らした体験メニュー提供



4 公民で連携した観光施策

市民に桐生を発信してもらう

H25開始

桐生観光大学

市民の観光に対する意識の高揚と情報発信機能強化

H26『“織都桐生”案内人の会』設立へ

H23開始

桐生の一押し商品認定事業

- 桐生市の優れた物産品の掘り起こしと宣伝を推進
- 認定品には一押しシール
- 商品開発を促進

R2年度認定(R4年度まで)

食品:61品目

民芸工芸:37品目



公民で連携したまちづくり

■桐生を「おもしろい」と思ってくれる人達＝桐生人の活躍

- 自分の可能性・夢の実現に向かって新しい取り組みを受け入れる素地がある
- やりたいことができるヒト・モノ・環境がある



5 桐生市の長をを活かした観光施策

意外にあるお楽しみスポット

番外編



桐生市動物園(入園無料・家族で楽しめる)



昆虫の森(昆虫帯の気候を再現した温室)

おススメ!



カルピアンビーチ(湖)にある清掃センターの余熱を利用した温水プール



自然観察の森(各種講座が豊富)



図書館の中にあるプラネタリウム(解説付き)

織物文化が育んだ市

三大市



■天満宮古民具骨董市
織物の取り引きがあった天満宮を会場に骨董市を開催。現在では関東の三大骨董市と言われるほどまでに。



■買場紗綾市
織物の取り引きがあった買場で市を開催。織維製品から食べ物、日用品まで品数豊富に取り揃えている。



■桐生楽市
織田信長の「楽市楽座」をもじって、ゴザの上で楽しみながら位置を行おうという趣旨から、「楽市楽座」という名称で開始したフリーマーケット

織物文化が育んだグルメ

■桐生うどん

織物で忙しかった女工さんのファーストフードとして広まったと言われている



■寿司屋・うなぎ屋が多い

織物の取り引きのときの接待に使ったことから、市内にはお店が多いと言われている



■ソースかつ丼

織物で忙しかったことから、揚げたカツを、うなぎのタレに似せた甘いタレにきつとつけて食べていたものと言われている



■ひもかわうどん

諸説あるが、織物で忙しかった女性が、手間を減らすため幅広に切るようになったことからとも言われている



ロケ地としての魅力

- 東京から約2時間
- 数多くの味のある施設がある
- フィルムコミッションの活躍

恋の華
ノースライト
哀愁しんでら
など



織物文化が育んだまちなみ

■重要伝統的建造物群保存地区



1591年、徳川家康の銘を受けた代官大久保町楽の手代、大野八衛門により町建て。町建て当時、桐生天満宮を起点に間口7間、奥行き40間の町割りを作り、桐生新町として職人を住ませたとされている。当時の町割りや建物が現在も残っている地区。



近江商人創業の矢野園。創業300年を超える。

江戸～昭和にかけて酒・味噌・醤油を醸造し保存するための11の蔵群。現在は多目的イベントスペースとして活用されている。

桐生八木節まつり



歴史ある「桐生祇園祭り」と郷土芸能「八木節」を中心とした「桐生八木節まつり」は、毎年約50万人もの人出で賑わいます。まつり期間中は市内各所にやぐらが設置され、何重にも踊りの輪が広がり街中が熱気と興奮に包まれます。

日程：毎年8月第一金・土・日曜

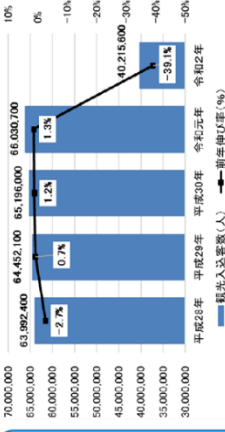
令和2年(2020年) 観光入込客統計調査報告概要 (群馬県)

群馬県発表資料より

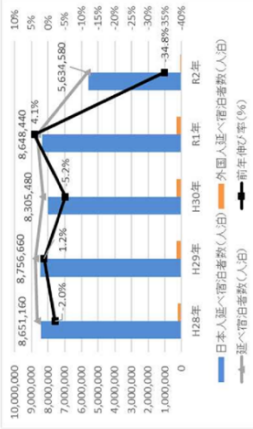
結果概要

■ 観光入込客数

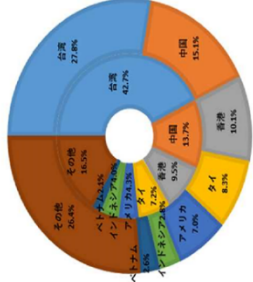
- 観光入込客数 40,215.6千人であり、前年比▲39.1%
- 宿泊客数 延べ宿泊者数は5,635千人泊であり、前年比▲34.8%、外国人延べ宿泊者数は7千人泊であり、前年比▲75.9%
- 観光消費額 1,785億円であり、前年比▲37.3%
- 観光消費額単価 宿泊23,491円であり、前年比▲8.8%、日帰り14,399円であり、前年比▲4.7%



■ 宿泊者数

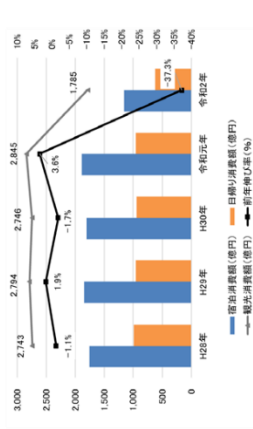


■ 外国人延べ宿泊者数国籍別シェア(従業員数10名以上の施設)



外円：2020年国籍別シェア
内円：2019年国籍別シェア

■ 観光消費額単価

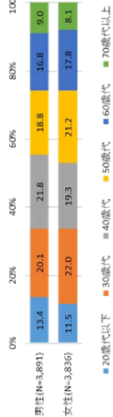


調査方法

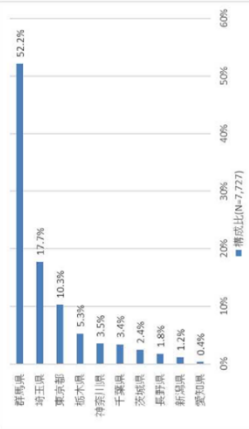
- 観光入込客数 群馬県「観光客数・消費額調査」
- 年間1万人以上、もしくは特定月が1,500人以上の全観光地(観光行事)について、県内35市町村へ照会を行い集計
- 宿泊者数 観光庁「宿泊旅行統計調査」
- 観光消費額 観光庁「観光消費額調査」
- 年間1万人以上、もしくは特定月が5,000人以上の観光地(観光行事)について、「観光地アンケート調査(アンケート調査)」※及び「宿泊旅行統計調査」等の結果から推計
- (参考) ※群馬県「観光地アンケート調査」
- 調査員による聞き取り調査を、四半期ごとに県内20カ所で行った
- 調査項目：性別、年齢、居住地、来訪目的、旅行消費額、来訪満足度、再来訪意向等

(参考) 群馬県「観光地アンケート調査」結果

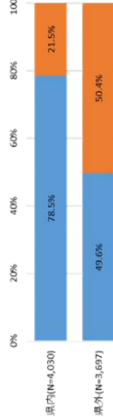
■ 観光客の属性-性別



■ 観光客の属性-居住地 (上位10位)

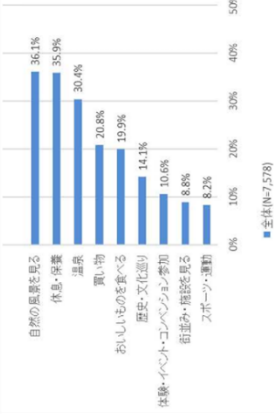


■ 観光客の属性-宿泊の有無

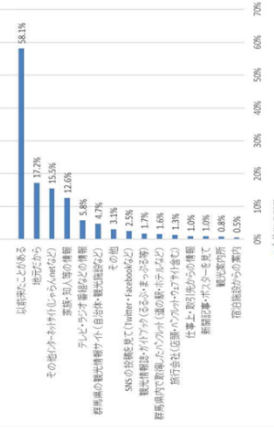


- 年代は男性が40歳代、女性が30歳代が最も多い。
- 居住地は、群馬県が最も多く、前年比より割合が大幅に増加した。(37.2%→52.2%)
- 宿泊は、県内が50.4%であり、県内観光客の宿泊割合は前年より大幅に増加した。(10.8%→21.5%)

■ 観光の主な目的 (複数回答)



■ 観光地選択の際の情報源 (複数回答)



- 「自然の風景を見る」が前年比より割合が増加し、36.1%で最も多くなった。(30.2%→36.1%)
- 「以前来たことがある」が58.1%で最も多い。